

Title	三角級數ノ和ノ積分可能性ニ関スル一注意
Author(s)	高橋, 龍夫
Citation	全国紙上数学談話会. 41 p.3-p.7
Issue Date	1935-05-14
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/74054">https://doi.org/10.18910/74054</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 132. 三角級数ノ和ノ積分可能性ニ関スルニ注意

高橋龍夫 (東北大)

一ツノ三角級数

$$(1) \quad \frac{1}{2}a_0 + \sum_{n=1}^{\infty} (a_n \cos nx + b_n \sin nx)$$

ガ一ツノ區間  $(a, b)$  デ一ツノ函数  $S(x)$  = 收斂シテモソノ

函数が積分可能デアルカ否カハ分ラナイ。實際  $S(x)$  が *non-negative* デアツテモ積分可能ニハナラナイ。ソレデコノ外ニ如何ナル條件ガアレバ  $S(x)$  が積分可能ニナルカトイフコトガ問題ニナレ。之レニ付イテハ *steinhaus*, *Zygmund*, *Verblunsky* ノ研究ガアル。

最近ノ三角級数ノ單一性ノ理論デハ (1) *Poisson sum* ノ性質 (積分可能性) カラ單一性ヲ論ジテキル。ソレデ上ニ述ベタト同ジニ *Poisson sum* ノ積分可能性ガ問題ニナル。之レニ就イテ *Verblunsky* ノ定理ガアル。

定理. モシ (1) *lower Poisson sum*  $\underline{P}(x)$  が

$$(2) \quad \underline{P}(x) \geq 0 \quad (a < x < b)$$

ヲ満足シ

$$(3) \quad a_n = O(1), \quad b_n = O(1),$$

且ツ、 $x=a$ ,  $x=b$  デ

$$(4) \quad \sum_{n=1}^{\infty} \frac{b_n \cos nx - a_n \sin nx}{n}$$

ガ収斂スレバ、 $\underline{P}(x)$  ハ  $(a, b)$  デ *Lebesgue* ノ意味デ可積分デアル。

コノデハ條件 (2) ヲモット一般ニシヤウ。即チ

定理. (1) *upper Poisson sum* 及ビ *lower Poisson sum* ヲ大々  $\bar{P}(x)$ ,  $\underline{P}(x)$  トスル。今

$$\underline{P}(x) > -\infty, \quad \bar{P}(x) \geq 0$$

トシ、(3) ガ満足サレ、更ニ (4) ガ  $x=a$ ,  $x=b$  デ収斂ス

レバ、 $\overline{P}(x)$ ,  $\underline{P}(x)$  ハ共  $= (a, b)$  デ可積分デアル。

証明, (3)カラ

$$F(x) = - \sum_{n=1}^{\infty} \frac{a_n \cos nx + b_n \sin nx}{n^2}$$

ハ連続函数デアル。 假定カラ  $\underline{P}(x) > -\infty$  デアルカラ、 $(a, b)$

内ニツノ *non-dence closed set*  $F_1$  ガアツテ、ソノ *contiguous interval*  $\delta$  フトリト、ソノ *interior interval*  $d$  デ  $\underline{P}(x) > K$  ナル常数  $K = K(d)$  ガアル。

今  $\Phi(x) = F(x) - K \frac{x^2}{2}$  トオクト、 $\Phi(x)$  ハ明カニ  $d$  デ連続

デアル、ソシテ *Rajchman-Zygmund* ノ定理カラ

$$\overline{D}^2 \Phi(x) = \overline{D}^2 F(x) - K \geq \underline{P}(x) - K > 0.$$

コノ  $\overline{D}^2 f(x)$  ハ  $f(x)$  ノ *upper generalized 2nd derivative* デアル。 *Steinhaus* ニヨルト、一般ニ

ツノ *closed interval*  $(a, b)$  デ連続ナ函数  $F(x)$

ガ  $a < x < b$  ノスベテノ  $x$  ニ付イテ  $\overline{D}^2 F(x) \geq 0$  ナラバ、

$F''(x)$  ガ  $(a, b)$  ノ殆ンドスベテノ点デ存在スル。故ニ  $\Phi''(x)$

ガ殆ンドスベテノ点デ存在スル。従ツテ  $D^2 \Phi(x)$  (*general-*

*ized 2nd derivative*) ガ殆ンドスベテノ点デ存在ス

ル。即チ  $D^2 F(x)$  ガ殆ンドスベテノ点デ存在スル。故ニ  $\delta$  ノ殆

ンドスベテノ点デ  $D^2 F(x)$  ガ存在スル。

\*  $= F_1$  ノ *perfect kernel* フ  $\Pi_1$  トスルト、 $F_1$  ハ *enumerable set* ト  $\Pi_1$  ノ和デアル、 $\underline{P}(x) > -\infty$  デアルカラ  $\Pi_1$  ニ関シテ *non-dence* デ *closed* +  $\Pi_1$  = 含

マレル集合  $F_2$  がアツテ、更 =  $F_2 = \text{contiguous} + \text{interval } \delta_i$ , interior interval  $d$  ヲトルト常数  $K_i = K_i(d_i)$  がアツテ  $x \in \Pi, d_i$  ノトキ  $\underline{P}(x) \geq K_i$ . 故 =  $d_i$  デ前ト同ジ論理ヲ用ヒルト  $D^2F(x)$  が  $\delta_i$  ノ殆ンドスベテノ点デ  $D^2F(x)$  が存在スルコトが分ル. コノ論法ヲ繰返シ *transfinite induction* ヲ用ヒテ、 $(a, b)$  ノ殆ンドスベテノ点デ  $D^2F(x)$  が存在スルコトヲ知ル。

サテ *Fatou* ノ定理カラ、 $D^2F(x)$  ノ存在スル点デハ

$$(5) \quad D^2F(x) = \overline{P}(x) = \underline{P}(x).$$

$\overline{P}(x) \geq 0$  デアルカラ殆ンドスベテノ点デ  $D^2F(x) \geq 0$ . 且ツ  $\underline{P}(x) > -\infty$  デアルカラ  $\overline{D^2F}(x) > -\infty$  が至ルトコロ成リ立ツ (何トナレバ、 $\overline{D^2F}(x) \geq \underline{P}(x)$  ナル故).  $\overline{D^2F}(x) \geq 0$  ナル如キ点デ  $\phi(x) = 0$  トシ  $\overline{D^2F}(x) < 0$  ナル如キ点デハ  $\phi(x) = \overline{D^2F}(x)$  トオクト、 $\phi(x)$  ハ零 = *equivalent* + 函数、從ツテ 勿論可積分デ且ツ至ル所有限デアル。

ソシテ

$$(6) \quad \overline{D^2F}(x) \geq \phi(x)$$

デアアル。

之レカラハ *Verblunsky* ノ論文 (*Journal London Math. Soc.* 6 (1931) p. p. 109-110) ト同様デアアル。但シ *Lemma 1* ヲ用フトコロヲ *Lemma 2* ヲ用ヒル。結局  $D^2F(x)$  が  $(a, b)$  デ可積分 = ナル。(5) カラ  $\overline{P}(x)$ ,  $\underline{P}(x)$  が

可積分 = ナル。

上ノ定理ニ於テ (2) ハ更ニ

$$\underline{P}(x) > -\infty, \quad \overline{P}(x) \geq \psi(x) \quad (\psi(x) \text{ハ可積分函数})$$

デオキカヘラレル。